

★神戸の催し物ご案内

2月

●愛読者招待席

神戸っ子読者を左記の催物にご招待いたします。
(10名様)

△音楽▼
★カナディアン・プラス・アンサンブル
5日(火) 6時半 神戸文化ホール
1人 民音/会員・2000円
一般・2300円
16日(土) 12時(祝) 神戸文化ホール
1人、1000円

★第4回神戸三曲協会演奏会
16日(土) 2時 神戸文化大ホール
1人、1000円

★神戸市少年団音楽隊合同演奏会
16日(土) 1時 神戸文化大ホール
無料

★山下達郎
16日(土) 6時半 神戸文化大ホール
1人 A・2500円 B・2300円
○円

★クロード・チアリ
16日(土) 6時半 神戸文化大ホール
1人 A・2500円 B・2300円
○円

★山下達郎
16日(土) 6時半 神戸文化大ホール
1人 A・2500円 B・2300円
○円

★山下達郎
16日(土) 6時半 神戸文化大ホール
1人 A・2500円 B・2300円
○円

★クロード・チアリ
16日(土) 6時半 神戸文化大ホール
1人 A・2500円 B・2300円
○円

★山下達郎
16日(土) 6時半 神戸文化大ホール
1人 A・2500円 B・2300円
○円

★新機軸で第5回「神戸能楽教室」を開催
古典芸能のルーツである「能・狂言」の理解をより一層深めていた
だくために、神戸能楽教室を開いていたが、今回で五回目を迎えるこ
とにになった。2月23日「野宮」野村四郎、3月22日「船」観世清和「千
手」吉井順一。4月24日「屋島」藤井徳三。5月22日「龍虎」吉井順
一。4月間で能五番を上演。いずれの回も解説つき。会員券は4日通し
で800円。申し込は神戸っ子まで。



中村欽子



★もとまち寄席・恋雅亭
10日(日) 6時半 1000円
ホール



桂 小文枝



★三波春夫
4月25日(火) ①2時 ②6時
神戸文化大ホール

★ショウ・ガール
4月30日(水) 6時半
神戸文化大ホール

★ハンス・リヒターハーザー
ピアノ演奏会
4月30日(水) 6時半
神戸文化大ホール

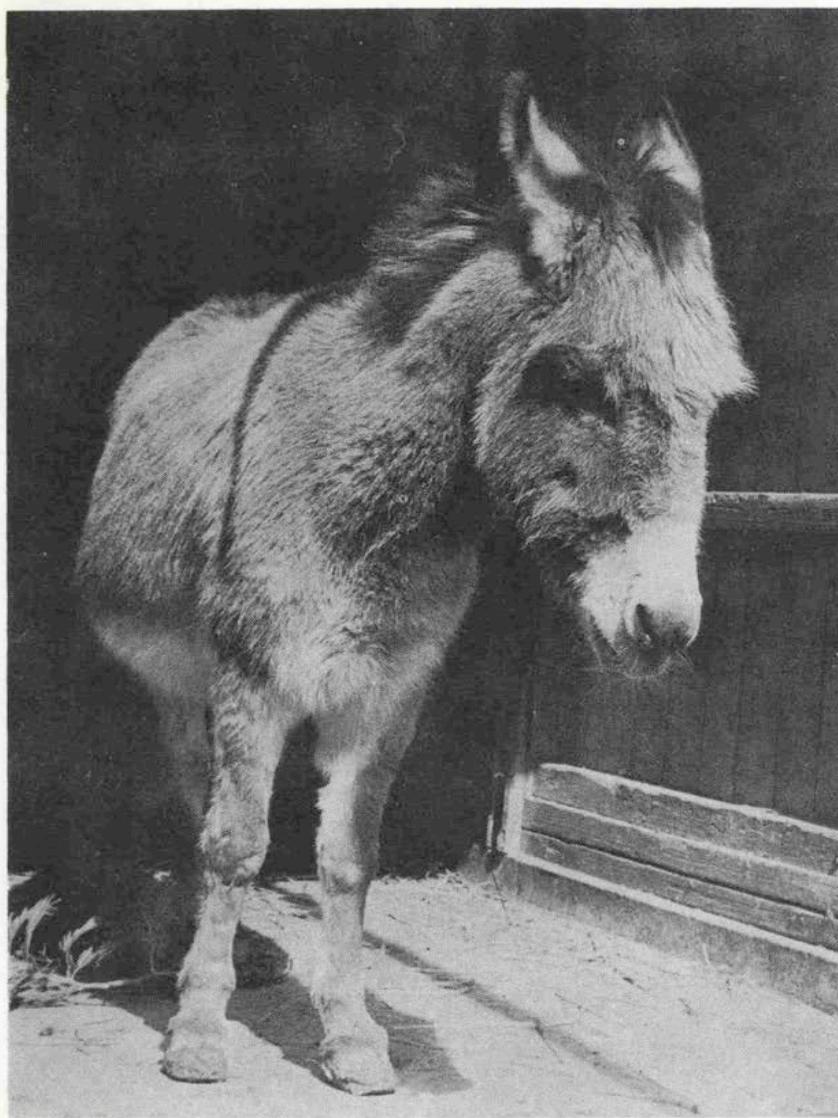
★中村欽子ピアノリサイタル
4月26日(火) 7時
神戸文化大ホール



関 晴子

ご希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部・優待係へ川崎まで

ご希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部・優待係へ川崎まで



動物園飼育日記——¹⁷¹——亀井一成

パンダより口バが好き！



ポートピア'81、いよいよ一年数カ月を余すだけとなつてきた。はからずも'81年3月には神戸王子動物園も30周年を迎える行事が重なることになる。というのも、30年前現王子公園内で神戸産業博が開催され、その会期中にあのゾウの「マヤ子」がやってきたのだ。

博覧会終了後、いったん諏訪山動物園にゾウを収容し一年間の準備期間を経て、翌年トラ、ヒョウ、クマ、サルなどを加え、現在の王子動物園への大移転、そして華々しく開園を迎えたのが3月20日であった。

とにかく、入園者を増やすこと。それには、並べるだけではだめだ。動物ショウに夜間開園、ホタル狩り、野外コンサート、映画会、漫才、バレー、そして、子供のあそび場には汽車やモノレール、飛行塔の他、ロバの馬車も加わり、大変な人気。ゾウは演芸のあと子供たちを背にのせ一巡し、チンパンジーとオランウータンの自転車、竹馬のあと可愛い魚屋さんというおサル芝居も新聞紙上をにぎわせ、日曜ごとのショウでは人園者が納得しないで連日朝・昼2回の公演を飼育のあいまに行なう忙しさが続いた。ロバに乗りたい学童も急に増え、とうとう2台に増車するとい



仲睦まじいロバの夫婦です

うレジャーランドとしての動物園に発展して行つた。とにかく人園者を増やし増収を得ることが動物園を良くすることになるという考えを現場の一人一人が自覚しているものだった。

十円玉を握った学童がずらりと長蛇の列を作る毎日曜。飛行塔や子供の汽車をしのぐロバの人気は圧倒的だった。

だが、こうしたお祭り騒ぎの動物園春の行事も何時しか考させられる時代が訪れてきた。夜桜開園でのドンチャン騒ぎにクレームがつき、まず中止。ゾウのマヤ子の死により動物ショーも取りやめることになった。そしてロバへの手紙と題して学童からの一通の投書が舞いこんだのもその頃のことだった。

「小さなロバさんに20人の子供が群がるように乗り、重たそうに引つぱるロバさんがかわいそう!」という文面だった。

取りあげたある新聞紙上でのロバ論争はこうであつた。

〔ロバの馬車賛成派意見〕

別に坂道でもないし、平坦な運動場をしかも僅か一回

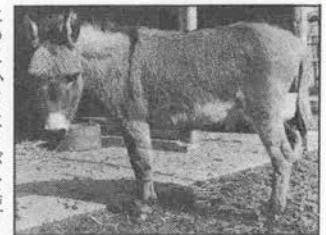
50m位の道のりだし、適当な運動になるじやありませんか、それに汽車や飛行塔なんかは動物園でなくともある。動物園らしい動物の乗り物があつて然るべきではないか。どれ程多くの学童が、ロバを見て、ロバに乗せて貢うことを楽しみに入園しているかお解りにならないでしよう。たつた一人の学童の意見をこうも大げさに取りあげることもないのです。それが証拠に十円玉握った反対の手に大根葉や人参、パンまで持つて来ているじやありませんか。そして、重たそうに見えた時は、みんなが馬車のあと押しさえしている姿もあった。

また、ロバというものは生まれつき、荷車

を引くようになつておひ、休

ませてしまふと運動不足になつて長生きできないのではありませんか。

馬車ヤメロ派意見



動物園は動物を愛護する場所ではありませんか、しかも汽車や飛行塔という子供の乗物もあるし、第一、金儲けのために小さなロバを使うなどもつてのほかや、色々な動物を見せては、生物のすばらしさを教え、いたわりの心を育てる動物園であるはずなのに、重々しい満載の馬車を見た学童が、小さな心を痛めてしまい涙さえ流すんです。園長さんどうかロバを休ませてやつて下さい。

さて、結果は一通の新聞社への投書がロバの馬車を中止させることになり、現役を退いた4頭のロバのうち、1頭はすぐ他の動物園に交換転出。馬車担当のおじさんは市の職員でなかつたので翌日から失職、台車は売却されてしまつた。

かつては競馬場で馬の世話をし定年で退職したやさしそうなお方だった。もちろん4頭のロバを交代で休ませ、時には順番を変え、体調をうまく見てやつていたことの説明も、わざわざロバのために元気をつけてやるんやと漢方薬を買ってきてやつたり、欠かさず青草を背おつて出勤していたことの事実も記事には書かれてはいなかつた。その馬好きのおじさんが淋しそうに毎日手入を使つたブラシやタオルを片手に「みんな元気で、また会いにきてやるさかいな」何度も何度もロバをなでてやり、とぼとぼと去つて行つた姿、私ははつきりと覚えている。今ご健在なら80才を迎えておられる

ことだろう。

そして足掛け30年。いまもおよそ32才を迎えるオス1頭野動物園にも30才を迎えるロバ一文字号がいた。戦争中負傷兵の輸送に当り終戦後上野

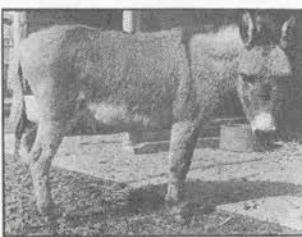


に寄贈され馬車に子供をのせみんなに親しまれていた。しかじる年波に歯が痛みだした。しかも前歯だつたため草も噛み切れないあります。長寿表彰の候補にあげられたとき、当時の子供動物園長だった遠藤悟朗さんが一枚の表彰状よりも老いた一文字号に役立つ入歯をしてやつてはという発案から、日本で初めてロバの入歯をしてやつたことあまりにも有名な話である。

幸にも当園のロバは歯もきれいだし、繁殖さえしてくれそうだ。

「パンダ、パンダと大騒ぎするけど、ぼくは、あんな形動物よりも古ぼけた家の隅でひつそりと暮している、こんなロバのような動物の方が好きなんです」と、この老いたロバを丹念にぬぐつてやりながら、飼育4年を迎えた若い佐々木飼育員の口からこんな言葉が返つてきた。私はうれしかつた。彼は「おはよう朝日です」ABC、TV撮影インタビューを努める私のマイクにこう答えてくれたのである。

△王子動物園学芸員／写真
みんな、プロ飼育員の手厚い世話で、のほほんと暮す動物園の動物たちの方が野生よりよほど長生きだという事実ご存知だろうか。



幼児歯科 小児歯科

SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前 9 時 30 分
金曜日 午後 1 時 30 分
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル 6 階
〒650 生田区加納町 5 丁目 39
TEL (078)331-6302~3



こんにちは赤ちゃん



東山大志くん/灘区鶴甲

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柄町 1 番 18 号
芦屋市民センター(ルナホール) 東南
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

たかはしもう笑品集

内 容

「最新カラーマンガ」(9頁)

「笑点20年」(36頁) 「似顔絵100人」(54頁)

「ニュースマンガの一日」(4頁)

〔送料100円〕

お申込みは「たかはしもう出版会」(月刊神戸っ子編集部内)
送金方法／太陽神戸銀行三宮センタービル支店普通預金一一五二七〇四「たかはしもう出版会」
または月刊神戸っ子あて現金送金してください。

ニュース漫画△神戸新聞 //笑点// Vを
必死のパッチで描き続けて七、〇〇〇回(二〇年)
△海軍めしたき物語▽が好評の

安心の留学
ENGLAND

お一人でもいつでも
安心して留学できます。

トップナッチは治安よいイギリスロンドンに事務所を
オープンしておかげさまでもう8年目です。
日本人スタッフが日常生活のアドバイスなど
きめ細かいサービスが大変好評です。

●短期4週間から **¥398,000**から
1年間の長期まで、あなたの希望にご相談に応じます。



海外留学・海外旅行その他の
旅行に関するご質問やお問い合わせ
もお気軽にご相談ください。
みなさまのお越しをスタッフ
一同よりお待ちしております。

神戸支店長
新井 和宏

運輸大臣登録一般旅行業 第492号 TOP NOTCH INC

TOPNOTCH

株式
会社

トッコナッチ

〒651 神戸市葺合区琴緒町5-7

☎ (078) 242-2695(代)



本社 東京
海外支店 ロンドン/リージントストリート
パリ/シャンゼリゼ通り

小山乃里子の
ノコ
ち
や
ん

華麗なる食べある記

△27V すぱいすれすとらん ぶはら
△28V レストラン フック

△ぶはら

★シルクロードの雰囲気を満喫、スパイスも四十種

いつの日か、シルクロードをたどりたいと想う。昔、
ヘディンの中央アジア探険記なる本を読み、さまよえる
湖「ロブノール湖」に夢をはせた。井上靖の「敦煌」も
輪をかけた。そんな私に、今日は嬉しいお店の紹介であ
る。

すぱいすれすとらん「ぶはら」。ブハラとは、ソ連ウズ
ベク共和国の古都の名であり、その街の中、たくさんの
遺跡があることで知られている。中山手の北野坂、ソネ
の向い側の、地下へと通ずる階段、もうその壁からシ
ルクロードの写真などがはってあり、雰囲気は充分。扉
をあけると、七、八坪の面積にテーブルが四つ。まつ先
に奥の四角いタンスに目がいった。江戸時代あたり、薬
屋さんなどにあつた百味ダンスというやつで、ひき出し
が全部で八十一ある。その中にぎっしりスパイスが入っ
ている。まあ聞いてびっくり、スパイスって百二十から
三十も種類があるそうな。日本で作れるものは数少なく
ほとんど輸入に頼っている現状で、それでもこの店は四
十種位を置いてある。テーブルの上にもすでに何種類か。

匂いでもわからない。「タイム」「マジョラン」「ニッキ
ト」「グリーンペッパー」「クローブ」「ターメリック」。

さて肝心のお料理は、と、メニューを見ても、も一つ
よくわからないからコースに頼ることにする。まずはア
ベリティフ。スパイス入りのオールボーン・アクラヴィー
ト。北欧のお酒である。かなりきついのに口当りはバツ
グン。パドウというスパイスせんべいが出た。パリバ
リとしていて、これはこしようとお塩入り。豆と野菜の
スープ。インドから中近東にかけてこのスープが朝の街
で売られているそう。あー、行きたいな。サモサ、
これは知ってる。インド料理で良く食べた。横について
る緑色のものは何だ。へえー、ハーブとレモンと玉ねぎ
をすつたものですか。ハーブはのどの痛みに、私の愛用
品なのだけど、こんな色してるので。中近東原産とい
うなすのサラダ。セロリをこまかく切ってまぶしてある
のが実にさっぱりした味である。おなじみのシシカバブ
ーが出て来た。シシは串、カバブーが焼くという意味だ
そうで、インドみつば(いんさい、コリアンダーともい
う)の線があざやか。小さなこんの上で、ぐつぐつと
煮えて来たのがラム鍋(ローランジョーシ)。ラムをこし
よう、カルダモン、クミン、コリアンダー、しようが、
玉ねぎなどの中につけ込んでギート(油)でたくのだが、





▲約40種類のスパイスを駆使。手前左がシシカバブ。
右はラム鍋。上の三角形がサモサ。

「スパイスは香りと色と辛みの三要素が大事です」と
話す松山道夫さん。



★ステーキ、ワイン、世界の料理が楽しめる

お肉のやわらかいこと。これはおいしい。えつ、まだあるんですか。野菜カレーをサフラン御飯でいただくつて、入るかな、お腹いっぱいなのにといながらペロリと食べた。

カルダモンというアフガニスカンのお茶を飲んで、ふと天井をみ上げれば赤と黒の素敵なものよう。シルクロードへは仲々行けそうもないから、これからはここでしばしの雰囲気だけでもひたりに来よう。

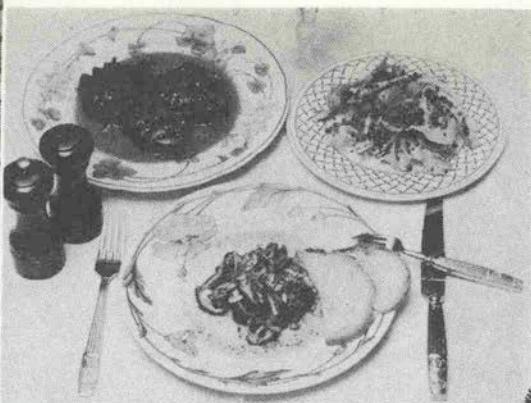
シシカバブ／1450円 ラム鍋／1600円 各種カレー800円
50円 スパイスティ／350円 ぶはらコース／2000円
生田区中山手通1-19 クラシヤマティビルB1 電241-7017
午前11時半～午後2時 午後5時～9時 日曜休

□ フツク

元町の南京街あたり、目をみはるようになってきれいになりました。ピカピカのイルミネーションが少なくなり、あちこちにしゃれた喫茶店などが出来ていて。一瞬不安になつた。フツクももうかれこれ三年は来ていない。店が変わったという話は聞いていないけど、たしかここに入つて、左へ行つて、あー、あつたあつた、この階段、やっぱり両側にずらりと花の鉢植えが飾られている。前この鉢植えの一つをもう少しでけとばしそうになり、あつと思つた瞬間、階段を三段程ふみはずしたんだつけ。今日は恥をかくまいぞ。

扉を開けてくれたのは異国人の人だった。階段を上る足音で美人がわかつちやつたのかなあ。にっこり笑つて、サンキュー、と勝手知つてていで左へと歩き出したら「あー、こっちです。あのカウンターの横をずっと奥へ……」「ええ。前はここ壁とちやいました?」「はあ、一年前、こちらにも部屋を造りました」奥まつた部屋、まず目についたのがワインカラーの長椅子だった。なんともいえない素敵な色で、いつぶんに気にいった。料理

フック



▲前がバターの香り豊かなエスカルゴ森林風。上左は三種のペパーを使って焼いたベー・ステーキ。

「日本の材料でフランス料理を、というのがこれからいき方だと思います」と話すシェフの茅切勇さん。

食べに来てまず椅子をほめちゃあ悪いかなあ。まあしかし、おいしく料理をいただくには、その部屋の雰囲気つてものがとても大事だと思うけど。

シェフの茅切さん。オリエンタルホテルから六甲オリエンタル、そして請われて十年前。このフック神戸店開店と同時にこちらに移ったお方。顔つき、言葉づかい、やさしいのです。この料理は、フランス料理を基調としたヨーロッパ料理ということで、まずはエスカルゴの森林風。去年の秋から新しくメニューに仲間入りしたもののエスカルゴの殻蒸し、つまり、身と、しめじ、えのきだけ、マッシュルーム、なめこなどをいためてパセリのみじん切りを上に散らしている。しめじなど全て日本で作れるものを使って。この全て日本でとれるものを使ってのフランス料理、というのがシェフの一つの信念のようである。

白、黒、グリーン、三種のペパーを使って、ベーバーステーキ。ころころところがる山椒をお肉にのっけて食べれる。肉料理は、まあいわばフックの看板だから、口の中でとろけるような甘さというか香りというか、やわらかさは言うまでもない。

サラダの上に、ベーコンをカラカラに焼いてこまかくくだいたものが乗っている。これがまたドレッシングとうまく合って、くどくなく、さっぱりしている。デザートは、なんと牛の脂を使ったプリン。どんなものが出て来るやと思つたら、ラム酒につけたラムケーキ。中に入つてゐる白いものが牛の脂なそうな。季節でデザートは色々変わららしい。

最後にもう一つ。ワインのグラスが、一つこつそりもつて帰ろうかと思う位気にいった。

蛤のスープフック風／600円 スモーカーサーモン／1000円 ソーセージ／2300円 ベー・ステーキ／500円

神戸店・生田区栄町通2丁目24 電321-3453

午前11時半～午後2時、午後5時～10時半(ラストオーダー)

日曜／午後4時～10時 無休

大阪店／大阪市北区兎我野町

電06-312-3050

護国神社—榎谷—榎谷峠—丁字が辻—一軒茶屋—魚屋道—有馬温泉

六甲最高峰のアンテナ

久保田 武 △日刊スポーツ新聞社校閲部長△

・六甲100コス



六甲最高峰下にて筆者

たあとで、案内役の小泉正巳さんは「六甲最高峰は、あそこだよ」といった。

灘にある護国神社から長峰中学、カナディアン・アカデミーの、ものすごい急勾配の坂道に、ド肝を抜かれ、ちょうどぶつかつた登校時の中学生と、その坂道をいつしょに登りながら「こんな坂を毎日登つて学校へ通つているんだから長峰中学の生徒には肥満児はないだらうな」と胸のうちでつぶやいていたころは、まだよかつた。これより「榎谷峠へ」という標識のあるところを、しばらく行くと大きな岩や石ころの道が急にせばまる。砂防ダムでも作っているのだろうか。今まで登つてきた川のある道を、こんどはウ回しなければいけない。その仮設道の高さまで丸太ん棒のハシゴが垂直のような角度でかかっている。一生懸命つかまりながら、やつと登る。「えらいところへ、つれてきて」と、このルートを選んだ小泉さんが、うらめしい。

川床に、大きなブルドーザーが一台。工事中のものなのだろうが、あたりに人かけが見えないから、まるで捨てられたように放置されている。石ころばかりの道もなまいところに、どうして運んできたのだろう。三人の結論は「ヘリコプターやないやろか」ということに落ちついだ。

「開いてる！ 開いてる！ 開いてます！」カメラマン役の編集部のSさんが、振り返つて叫んだ。三人とも空腹だった。そのうえ、寒かった。こんな寒い季節に登山する変わり者は、そんなにいない。店もやっていないんじゃないやないかという心配が、三人の頭の中にはあった。でも、それはよけいな心配だった。

それまで私は六甲山頂は十国展望台のあるところだとばかり思つていた。だいたいが方向オンチだし、地形の高低などわかるはずがない。一つの「目的地」一軒茶屋は、わずかな下り勾配がある道の右側にあつた。そこで私たちは、温かい“ぜんざい”を食べて、体が温まつべた。

店の前を通つている道をはさんで向う側がちょっとした高地になつていて。その上に、ばかりかいバラボラアンテナが見える。“ぜんざい”を食べて、体が温まつべた。

やつとの思いで、通常の登山道へ出る。途中から石段がつづく。底の厚い登山靴をはいた小泉さんやSさんは、石段が苦手なようだ。急に、ペアーツと、神戸港から大



魚屋道にて。後方に樹氷で白く見える六甲最高峰をのぞむ。筆者(右)と小泉正巳さん

阪神へかけての眺望がひろがる。すごいながめだった。目が洗われる、というのは、こんなときの表現なのだろう。太陽の光がハーレーションをおこして、海が銀色にひかっている。その色と空の色が融けあって、水平線がどこにあるのかわからない。空と海とが一つになつた景色が、目の前にあつた。

どのあたりからか、白いものが舞いはじめていた。山の上は雪空だった。山の天気は、一瞬にして変わる。小雨が雪に変わり、しかもそれが激しくなつたかと思えばピタリと止む。こんどはガスだ。山のずっと上方から

流れてきて、いつのまにかあたりを覆う。つぎの瞬間、雪が走る。激しく走る。被服を通して、その下の皮膚がキューンとひきしまる。歩く、歩く、休んではいられない。

私は、幸運だった。小泉さんは「おととしから六甲に登つてて、はじめてや」と、感心したようにいった。Sさんは「満開の桜みたいですね。きれいナ」と、カーメラマンの目でいった。「樹氷」だった。私にとつては、二十年ほど前に雲仙で見て以来の、樹氷だった。樹氷に会うあたりから、パラボラは見えていた。でっかいナーと思つたが、ただそれだけだった。

一軒茶屋の若主人に、お話を聞く。

「あのパラボラは、どこかのテレビ局のものですか?」「あれはアメリカのものですよ」と若主人。
「え、まだアメリカが日本におりますのん?」と、こちらはとんちんかん。

「二十二年に接收されたままでときいてます。佐世保と横田とここだけらしいですね」

いま、小泉さんに教えてもらつたばかりの六甲最高峰、

神戸の人たちみんなが「六甲さん」と親しんでいる山のてっぺんに外国の基地がある! むかし、神戸の住吉とれ

た魚を有馬へ運んだという魚屋道(ととやみち)を下りながら、そのことばかりを私は考えていた。



須磨—宝塚間56キロ初体験記

挑戦！六甲全山縦走

酒井 茂樹

△NHK神戸放送局アナウンサー▽

・六甲山100コース



菊水山頂へ向う筆者

百戦練磨の山好きのみなさんが執筆する、こんなコナーに、私のような山に関して全くの素人が、顔を並べいいのだろうか。それも六甲登山の総仕上げともいって、六甲全山縦走(56キロ)をテーマにとりあげるなんです。

NHK総合TVの近畿の話題「チャレンジ六甲全山縦走」(11月14日午前7時20分放送)を、ごらん頂いた方なら、おわかりと思うのですが、これには深い理由があるのです。

六甲全縦をとりあげようという番組の企画会議の中で、「参加者をサイドからクールにリポートしよう」というリポーターの私の意見に対して、担当のプロデューサー達は申し合せたように、「番組としては、リポーターみずからが、全縦にチャレンジした方がおもしろいと思う」と、主張するのです。「そんなこと言われたって、何のト

レーニングもしていないし、10キロそこそこならいざ知らず、56キロなんてとんでもない。途中で、ダウンして番組の中で笑いものにされるのはいやだよ」こう主張はしてみたものの、多勢に無勢、とうとう無謀な挑戦を強いられる羽目となってしまったのです。そして、私が承諾すると、プロデューサー達は、ニヤニヤ笑いながら「同じ歩くなら、いかにもベテラン山男風に、衣裳がきまっている方が、落伍したときにおもしろいよ。今すぐ、登山用具店に行つて、衣裳をそろえよう」「何を言うか、ひとの気も知らないで」かくして、私は、はいたこともないニッカボッカに登山靴、さらに、チロリアンハットと、いかにも健脚そうな山男に変身したのであります。

疲れぬ夜があけた。全縦市民大会の行なわれる11月12日(日)の朝まだ暗い午前5時、きのうからの雨もやんでも、この日のために、早朝登山やマラソンで訓練してきた人達ばかりです。そして私は、プロデューサーやカメラマンの冷やかな(私にはそう聞こえた)「頑張つてよ。いつ乗権してもいいからね」の声を背にうけながら5時10分、スタートしたのです。まず、目指すは、鉢伏山(246m)。スタート後10分。ダメです。慣れない登山靴なんかはいたせいか、もう足が痛いのです。「こんな状態では半分も行かないうちに、乗権しなければならないか



朝日を受けて須磨高倉台の階段を登る。350段もあるの。

「もしれない」そんな不安が頭をかすめました。せつかく登りつめた横尾山(310m)をおりると、そこは北須磨の新興住宅地。このあたりが、午前7時。第一チェックポイントの萩の寺を過ぎると、またまた急な登り。高取山(320m)をめざします。「神戸市の野郎め！こんなところを住宅開発するから、昔、尾根つづきだったところが、谷になつて、登つたり下つたりしなければならないんだ。チクショーめ」などと、変なところに怒りをぶつけながら歩き続けます。スタートから20キロ地点の菊水山(450m)を必死の形相で登りつめると、車で先まわりしたプロデューサー達が、「そろそろ棄権する？」と聞きながら歩きを回します。画面に向かっていい顔したいけれど、そんな余裕は、全然ありません。そして、今の気持ちは、カメラに向つてしまつてくれ、あるいは、取材させられて、菊水山をあとにしたのは、もう11時をはるかにまわっていました。そして、足をひきずるようにして

て再度山(440m)から、あの地獄のような急な天狗道を過ぎて、摩耶山頂(699m)にたどりついたときは、3時をまわっていました。摩耶山頂ロープウェーのそばを通ったときの、これに乗れば帰れるんだという誘惑は、今でもはつきり覚えています。このころになると、ともかく足が、ただ交互に、前に出でているだけという感じなのです。第三チェックポイントの六甲ゴルフ場に着いたのは、もうあたりも暗い、締切り時間一分前の午後4時59分。それから歯を食いしばって最終チェックポイントの東六甲縦走路分岐点に着いたのが、締切り時間の6時30分。当然のことながら、私が、最後尾ということになってしまつたわけです。

あとゴールまで15キロ。ここからは、ほとんど下りばかりとはい、ひきつった足の痛さは、下りがいちばんこたえます。私の前後を、まっ赤な地に“最後尾”と白く染めぬかれたゼッケンをつけた係の人達がついて歩いてくれます。ヘッドランプをつけて、それこそ一步一步を数えるようにして歩くこと、3時間。ついにめざす宝塚の灯が見えてきました。そして、その灯を見ながら、さらに一時間。「もう少し、もう少し」何度も頭の中で反復したことでしょうか。武庫川にかかる大橋を渡るともうそこは、ゴールの阪急宝塚駅南口です。係のみなさんの拍手の中で、ゴールイン。ついにやった！恥ずかしいけれど、急に涙が出てきて仕方がないのです。ときに午後11時15分。スタートから、もう18時間が過ぎていま

というわけで、今回は景色を楽しみながら歩くなんて余裕は、全くありませんでしたが、次は、もっとトレーニングを積んで、山歩きの楽しさを味わいながら歩きたいのです。

でも完走を果した今、六甲連山を見あげるたびに、何かしら、どんな困苦も切り抜けられるという自信が湧いてくるのです。人生に自信をなくした方、あなたも挑戦してみませんか？なんて、大げさかな。

話題のひろば

<II>

合同出版記念会など 輪のまつりが開かる



上左 輪同人勢揃い 祝辞は小林武雄、小島輝正、増井不二也氏。

左下は、灰谷さん司会による子供の詩と大人の詩コーナー、下中は春木一夫氏の鏡割りはご覧のとおりすこいのだ。

輪のまつりは、「自分の血肉の中のある部分」と思っているだけに最初に挨拶と指名されただけでも胸が一杯」小林武雄氏。「今後も小骨を楽しみながら輪の精神を大事にして欲しい」小島輝正氏と祝辞が続き、同人の合同出版会が第一部、第二部は子供の詩と大人の詩をユーモアたっぷりに对比させたりのアトラクションがプログラムされ夜が更けるまでなごやかな会となつた。同人を代表して中村隆氏の「相変わらず地味で着実に牛歩の姿勢を崩さず歩んでゆきたい」という言葉が象徴的な「輪」の今後の発展を期待したい。

「五十号である。もう五十号になるかとも思い、まだ五十号にしかならないかとも思う」と後記にあるように詩誌「輪」が創刊五十号を迎えたので足かけ25年になつても過言ではない内容の充実は、赤松徳治、伊勢田史郎、岡見裕輔、海尻巖、各務豊和、貝原六一、北見哲哉、桑島玄二、里見一夫、直原弘道、坪谷令子、ななかんじ、中村隆、布村寛、灰谷健次郎、丸本明子という同人の顔ぶれを見ても推しはかかる。

輪のまつりは、「自分の血肉の中のある部分」と思っているだけに最初に挨拶と指名されただけでも胸が一杯」小林武雄氏。「今後も小骨を楽しみながら輪の精神を大事にして欲しい」小島輝正氏と祝辞が続き、同人の合同出版会が第一部、第二部は子供の詩と大人の詩をユーモアたっぷりに对比させたりのアトラクションがプログラムされ夜が更けるまでなごやかな会となつた。同人を代表して中村隆氏の「相変わらず地味で着実に牛歩の姿勢を崩さず歩んでゆきたい」という言葉が象徴的な「輪」の今後の発展を期待したい。

話題のひろば

<II>

華やかに あでやかに・・・

“いよいよ”、意勢のいい掛け声に続いて、‘チヨーン’と拍子木が入る。京都祇園連の綺麗どころがでやかに会場へと繰り出す。昨年十二月一九日（水）午後六時からオリエンタルホテル大宴会場で開かれた、「クラブ小万30周年謝恩パーティー」の華やかな幕開きだ。

神戸の経済界のお歴々を約二百五十名招待して開かれたパーティ

は、‘さすが、クラブ小万’と思わせる、実に盛大な会であった。

京都祇園連の‘手打’七福神花くづしに続いて、ママの岩本起代子さんが、万感の思いを込めて、鏡割り。見事、四斗樽が開いたところで、全員による三々七拍子。

そのあと、神戸福原連による踊りが続き、博多出身のママの方に、博多からかけつけたお姉さん方によって‘博多節’‘黒田節’が披露された。

神戸花隈連の踊り、京都先斗町連の素囃子で一たん休憩。

今度はガラツと趣好を変え、藤田まこと、橋幸夫の歌謡ショー。居上博とファインメーツをバックにヒット曲が次々と歌われた。

最後に挨拶に立ったママは‘明日から一年生の積りであります’と言葉少なく、会場もわんぱかりの拍手に、しばし感激をかみしめ、午後九時に閉会となつた。



(写真上) 右・あいさつをするママ、中・見事な鏡割り、左・歌う橋幸夫 (写真下) 京都祇園連のきれいどころが揃って華やかなパーティーのオープニング

“家庭学”の提唱

橋本 明 ▲社団法人「家庭養護促進協会」事務局長▽

昨年の秋に協会の主催で「家庭を考える」というテーマで公開講座を開いたところ、50人定員の会場に90人近くもの受講希望者から参加の申し込みをいただいた。

受講者のうち30人ほどはケースワーカー、婦人相談員、母子相談員、施設の保母、指導員など福祉活動の現場でそれぞれさまざまな家庭や親子の問題にかかわっている人たちで、40人ほどが家庭の主婦、里親、学生など。講座は「子どもと家庭—家庭によって子どもはどう変わる？」

聖和女子

大学教授

黒田実郎
氏、「世界の家庭と日本の家庭—東西暮し方の違いをさぐる」京

都大学助教授
山俊直氏
「老いと家庭—あなたの老年は大丈

夫か？」老年を考える会 飯田よしださん、「家庭はどう変わるか—私の描く21世紀への家庭像」大阪社会事業短期大学教授 服部正氏。そして最終回は協会制作の映画「親と子の絆を求めて」の上映と参加者の懇談パーティで縮めくくつた。とくに最終回は参加者が少人数ずつのグループに分かれ「私にとって家庭とは？」というテーマで熱心な話し合いが続けられ、大変実りある講座となつた。

熱心に耳を傾ける参加者たち



年は大丈

家庭は人間の成長にとってもっとも大切な場所であり

暮らしを守る最後の砦でもある。核家族化とそれに伴う福祉問題の発生は、人類史的にみると農業社会から産業社会へ移行する過程での必然的な現像だと指摘する人もあるが、もろくなつた家族を支えるための福祉サービスは一九八〇年代にはより一層強められることが必要である。

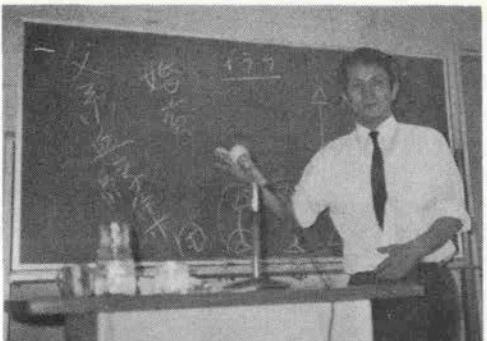
このほど神戸市市民福祉調査委員会から市長に出された答申にも家庭福祉の推進がとりあげられており、兵庫県でも家庭づくりに行政として積極的に取りくむ方針を打ち出し、「家庭づくりの手引草」を作製し、広く配布している。ただ、家庭という個性的なプライベートな領域に行政としてどんな形でかかわりをもつかは大変難しいことだし限界もあるであろう。

住みよい地域づくりは、その地域を構成するそれぞれの家庭づくりと切り離して考えられないが、また健全な家庭は住みよい地域と共にあるものである。今日の家庭のさまざまな問題は、どんなに努力をしても家族だけの力では解決しえないことも多く、失業、離婚、蒸発、病気、入院などのちょっとした波風がたてば崩壊に直面す

る家庭も多い。そんな時、地域の隣人の支えやはげましがあれば崩壊をまぬがれることもあり、行政の援助も大きな力となることもある。

アメリカには「Charity begins at home」（慈善は家庭から）という諺がある。これは自分の家庭をほつたらかして、他人のためにという名目で奉仕活動や寄付活動に走り回っている人たちを皮肉つたものだが、他人の世話をやく前に足元の自分の家庭をしっかりと守りなさい、といういましめの意味もこめられている。

家庭づくりというのは、やさしいようでなかなか難しい。家庭ほど個性的で、バラエティに豊んだ人間の集まりもまた他にはない。不安定な家庭が多くなってきた今日21世紀への家庭づくりを福祉の視点からだけでなく、さまざまな観点から学問的にも系統的に研究していく、いわゆる「家庭学」のような新しい学問の分野が必要になつてくるように思われる。そしてこの家庭学の研究や理論をこれから家庭づくりや地域づくりに生かすようなものに育ててほしいものである。



上 米山俊直先生の講義「世界の家庭と日本の家庭」
中 飯田よし枝さんのお話「老いと家庭」
下 「私にとって家庭とは？」というテーマで討論会